

求められている資質・能力のキーワード
「目的や意図に応じて的確に話す力」とは…

話す相手や目的、意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、適切な言葉づかいで話すことができる力です。

誰に話すか

何を話すか

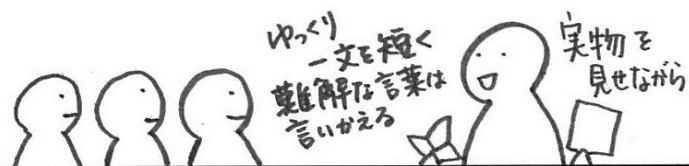
何のために話すか

それに応じて

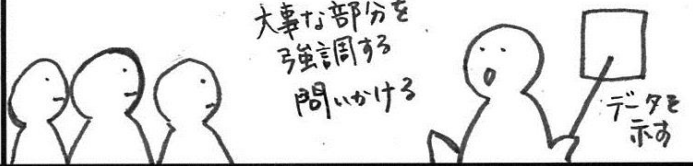
【話の内容・構成を工夫する】
要点をおさえて端的に話す
結論から話す・問いかけを多用する
根拠を示す・実演する

【適切な言葉づかいで話す】
声量や速度・抑揚や間の取り方
改まった言葉・丁寧な言葉

日本語を学ぶ外国の人に折り紙のよさを紹介する場合



自分の意見に反対している人を説得する場合



目的や意図に応じて、思考を整理しながら話すことが苦手な子供には、どのような手立てが考えられますか？

スピーチメモを活用するといいですよ。効果的なツールとして、付箋を使ったスピーチメモの一例を紹介します。

付箋を活用してスピーチメモを作ってみましょう

付箋の大きさや形を生かす
要点を短い言葉で順序立てて記述する

1枚の付箋に対して一文またはキーワードで書くようにします。

終わり	中	始め
大人になったら、親孝行をしたい。	「ありがとう」と言いたけれど、はずかしい。両親は忙しくても、話を聞いてくれる。	宝物は家族

水野のメモ

終わり	中	始め
思った。さくらちゃんも、また、ついに遊びたい遊んで。	①前川さんたちにおは、ごきげんよう。②にげるとき、さくらちゃんわたしの手強くにぎった。③木のかげに、見たりまんに、④「まさか姉ちゃんも、遊んで、うれしい。」	うれしかったことは「一生に、お姉ちゃんに言われたこと。」

小3

様子を踏まえたスピーチメモの例

終りの挨拶	具体的体験	さげかけ	話題タイトル
「これで発表を終わります。」	「五年生のとき、大大会で優勝。甲子園のメンバーに選ばれた。」	「甲子園のメンバーに選ばれた。」	「私の好きな、将棋」

中1

発達段階に合わせて、修飾語、文末表現など、メモに書く必要のない言葉や内容を減らしていくようにします。中学校ではキーワードだけのメモでも話せるよう、継続的な指導を行う必要があります。

付箋の色を生かす
事実や感想、意見等を区別する

事実は青、思ったことや主張は黄色、引用はピンクにしよう。



自分の意見に反対する人を説得するのに、付箋が青ばかりではいけないな。

目的や意図に応じて、事実を多く述べた方がよいのか、自分の主張や引用を取り入れた方がよいのかなど、色のバランスを見ながら効果的な構成について検討することができます。

付箋の特徴(貼り替えができる)を生かす
順番を並べ替えたり、取捨選択をしたりする

相手を納得させたいなら、まず結論から話したらどうかな。

こんなことが知りたいから、付け加えてほしいな。

この主張には根拠がないから資料を引用したらどうかな。

じゃあこれは取って、こっちを付け加えるね。

スピーチメモが本当に目的や意図に応じたものになっているかどうかについて、ペアやグループで付箋を並べ替えながら検討することができます。

このスピーチメモは、「たからものを紹介しよう」(2年上)、「話したいな、うれしかったこと」(3年上)、「立場を決めて討論しよう」(5年)など、「聞くこと・話すこと」の単元はもちろん、朝の会のスピーチや、委員会からの連絡等にも活用することができます。